

## 新潟大学人文学部の初年次教育

新潟大学人文学部 高橋 秀樹

人文学部の高橋と申します。よろしくお願ひいたします。

お配りしてある資料で、『第11回新潟大学全学FD 初年次教育の課題—大学学習法の実践を通して— 報告「新潟大学人文学部の初年次教育」』と表題のあるものに沿ってお話しをしたいと思っておりますので、そちらの資料をご覧ください。資料はA3版が2つ折りになっていて、中に図表が1枚入っているものとなっております。

さて、まず今回の報告ですけれども、9月2日付けのメールで3項目に分けて報告してほしいという依頼がございましたので、その3項目に則して黒字のゴシック体で表題をつけております。その3項目とは、「1 学部あるいは学科の初年次教育のとりえ方」、「2 現在に至る大学学習法の実施状況」、「3 初年次教育の今後の展望と大学学習法の今後の課題」、この3点を依頼に基づきまして報告することといたします。

まず最初に、「1 学部あるいは学科の初年次教育のとりえ方」ということなのですが、私ども人文学部では、この初年次教育につきまして、大綱化の年、平成5年から新しい授業科目を開設して取り組んでまいりましたが、その背景には、このレジュメには書いてないのですけれども、次のような考え方があります。

つまり大綱化では、専門と教養の区別が撤廃されて、いわゆる専門おろしがあちこちで見られたわけです。しかし、そういった専門おろしが各専門への蜻蛉化を助長することになるであろう弊害、専門知識は早く身につくかもしれないけれども、分野横断型の教育を受ける時期がなければ真に創造的な人材育成とはならないのではないか、という認識がありました。それで専門教育だけではない、横断的な教育というものを維持しようという発想が、平成5年以来、人文学部にはございます。

そういった背景に基づいて、人文学部における初年次教育の理念〔レジュメ「1」の(1)〕が、本年度から実施されました中期目標、中期計画の中で、人文学部の中期計画、中期目標で設定されています。この事柄に関する部分を抜粋し、教育に関する目標の(1)教育の成果に関する目標で、注目していただきたい部分にアンダーラインを引いておきましたのでご覧ください(資料1)。

学部教育の二本柱は、「専門基礎教育とリベラルアーツ教育」であり、「リベラルアーツ教育」とは、総合的かつ批判的な思考力を備えた人格の形成を目指す教育と定義されています。4年間を通してこの二本柱が有機的に機能する教育体制を充実させることで、課題探求能力および表現能力を涵養することが目標となっています。この目標を具体化する教育内容に関しては、人文学部中期目標Ⅱ1(2)のところに飛びますけれども、現代社会において要求される「総合的なリテラシー」、日本語のリテラシー、外国語のリテラシー、情報のリテラシーが基本とされ、その教育が教育課程上の基本方針とされています。

そのために具体的にどのような授業科目を設定するかということになりますが、アンダーラインの部分、「1年次の人文教養演習」、今回のテーマのために他のところにアンダーラインを引いていない部分、2年次、3・4年次の少人数の演習が、課題探求および表現能力の涵養のための双方向的授業科目として設定され、一貫したプログラムを目指すというようなことが中期目標、中期計画でうたわれているのです。

実際に初年次教育のための科目としてどのようなものを設定しているかということ、課題発見のノウハウと表現能力の涵養を目指す「人文総合演習」というものが片方にあり、それから個々の専門分野への導入を目的とする「入門科目」というものが片方にあるというように、大きな科目区分があります〔レジュメ「1」の(2)〕(資料2)。この人文総合演習と入門科目の区分というのは、先ほどの長崎大学の例では、スライド3頁目の、初年次教育を「基礎的知識の涵養」と「大学生としての態度の涵養」の2本立てでいくという、そういった考え方におそらく通ずるものではないかと考えております。

またレジュメには書いていないのですけれども、初年次教育においてはアドバイザー制というものをできるだけ徹底して実施しようとしております。初年次の学生4名から5名を1教員にあてて、その1教員が担当した学生と緊密に連絡を取りながら学習指導を行うようにしています。

次に、「2 現在に至る大学学習法の実施状況」について、まず人文学部における大学学習法科目実施の経緯ですが、平成5年のカリキュラム改正によって初

年次学生が必ず選択する科目として「共通演習」を開設したのが最初です。それを平成6年度、再度のカリキュラム改正によって「人文教養演習」に変更し、そして今年度のさらなるカリキュラム改正を経て「人文総合演習」への変更がされたわけです。

この「人文総合演習」というのが、大学学習法に相当するものなのですが、それはどのようなものかといいますと、レジュメ2頁目をご覧ください。今年から共通シラバスというものを導入しまして、ちょっと縦横が反転していますけれども、2頁目の下半分に「人文総合演習」の共通シラバスを掲載しています（資料3）。

表現能力と課題発見能力の涵養を目的に、1年生を対象とした少人数のゼミ形式です。少人数と言っても20名で行われます。それぞれ全部で14クラスございますので、本来であれば14クラスのシラバスがあるのですが、大部となりますのでここではお配りしませんでした。

趣旨としては、一方的な知識の伝授ではなくて、討論やレポートを通した双方向的授業を初年次に導入する、少人数のゼミ形式を学年の後の方ではなくて、前の方に最初から実施するという事です。それから人文学部の学生を主体としつつも、他学部の学生を歓迎するという事。個別専門分野に分かれずに、人文学部の学生全体に共通する導入教育を目指しています。そして共通シラバス、これはその下半分にあるもので

す。それから人文学部推薦図書リストの作成と利用。このリスト例を3頁目に掲載しております（資料4）。

このリストの内容なのですが、いわゆる何々学入門という本はほとんどありません。考える材料を得るための本を読んでもらいたいということから、それぞれの分野の概説、概論、あるいは入門ではないのです。それから、授業改善アンケートを機能遂行状況チェックのために昨年度から導入しています。レジュメ4頁目にアンケート用紙がございます（資料5）。

アンケートの質問にみられますように、「人文総合演習」ではとにかくレポートを出してもらって、それを添削して返すということを徹底しようということを目指しており、そのために重点的に質問が設けられています。また自由回答欄、これを非常に重視して集計しております。

時間も迫ってまいりましたが、「3 初年次教育の今後の展望と大学学習法の今後の課題」については、カリキュラム改正を経たばかりですので、今後継続的に検証作業を遂行していきたいと思っております。科目の横のつながりと縦のつながり。1つの科目は1つだけで存立しているものではなくて、他の科目との連携ということを強く意識し、それを重視していきたいと思っております。

今後の課題については、授業改善アンケートからわかったことのほんの一部だけ記載しておりますので、ご覧いただければと思います（資料6）。以上です。

## 資料1 人文学部における初年次教育の理念

### 新潟大学人文学部中期目標

(中略)

#### II 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

##### 1 教育に関する目標

##### (1) 教育の成果に関する目標

- 学部教育の二本の柱である専門基礎教育とリベラルアーツ教育（総合的かつ批判的な思考力を備えた人格の形成を目指す教育）が4年間を通して有機的に機能する教育体制を改善、充実させる。
- 課題探求能力および表現能力を涵養し、自ら未来を切り拓いていける学生を育成する。
- 多様化し複雑化した文化現象を歴史的、共時的に理解し、分析するための基礎的教育体制を整備する。

##### (2) 教育内容等に関する目標

(中略)

##### ○ 教育課程に関する基本方針

(中略)

- 現代社会において要求される総合的なリテラシーの4年間一貫教育体制を整える。

##### 1) 日本語による自己表現教育

##### 2) 外国語コミュニケーション能力の涵養

##### 3) 情報リテラシー教育

(以下略)

### 新潟大学人文学部中期計画

(中略)

#### II 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

##### 1 教育に関する目標を達成するための措置

(中略)

##### (2) 教育内容等に関する目標を達成するための措置

(中略)

##### ○ 教育理念等に応じた教育課程を編成するための具体的方針

(中略)

- 1年次の人文教養演習、2年次の基礎演習及び各種実習、3・4年次の演習および卒業論文指導を、課題探求能力および表現能力の涵養のための双方向的授業科目として一貫したプログラムに改善する。

(以下略)

##### ○ 授業形態、学習指導法等に関する具体的方策

(中略)

- 導入教育として推薦図書のリストを作成し、1年次学生に配布する。

(以下略)

## 資料2 初年次教育のための科目設定

人文学部の学生に共通して身につけてもらいたい  
課題発見のノウハウと表現能力の涵養  
「人文総合演習」

+

個々の専門分野への導入

### 「入門科目」

人間学入門A、人間学入門B、心理学入門A、心理学入門B、社会学入門、文化人類学入門、日本語文化入門A、日本語文化入門B、地域社会文化入門、アジア文化入門A、アジア文化入門B、英米文化入門A、英米文化入門B、ヨーロッパ文化入門A、ヨーロッパ文化入門B、情報文化入門A、情報文化入門B

初年次学生は木曜4限ないし5限に開設されるものを必ず前後期ともに履修する

初年次から、最低3科目を選択して履修

## 資料3 人文総合演習 共通シラバス

講義番号	科目名	単位	学期	曜・限	担当教員(所属等)	定員	対象学部等
G0001	人文総合演習A	2	1期	木・4	栗原 隆 (人文学部)	20	人文学部を主として他学部をも対象とする。
G0002	人文総合演習A	2	1期	木・4	鈴木 光太郎 (人文学部)	20	
G0003	人文総合演習A	2	1期	木・4	小林 昌二 (人文学部)	20	
G0004	人文総合演習A	2	1期	木・4	大石 強 (人文学部)	20	
G0005	人文総合演習A	2	1期	木・4	村上 吉男 (人文学部)	20	
G0006	人文総合演習A	2	1期	木・4	福沢 榮司 (人文学部)	20	
G0007	人文総合演習A	2	1期	木・4	三浦 淳 (人文学部)	20	
G0008	人文総合演習A	2	1期	木・4	山内 志朗 (人文学部)	20	
G0009	人文総合演習A	2	1期	木・4	細田 あや子 (人文学部)	20	
G0010	人文総合演習A	2	1期	木・5	佐藤 康行 (人文学部)	20	
G0011	人文総合演習A	2	1期	木・5	萩 美津夫 (人文学部)	20	
G0012	人文総合演習A	2	1期	木・5	井村 哲郎 (人文学部)	20	
G0013	人文総合演習A	2	1期	木・5	三ツ井 正孝 (人文学部)	20	
G0014	人文総合演習A	2	1期	木・5	並木 宏 (人文学部)	20	

英文名：Freshman Seminar I

### 〈科目の概要〉

人文総合演習は、表現能力と課題発見能力の涵養を目的に、1年生を対象に、少人数のゼミ形式で行われます。科目の具体的な内容は、演習担当教員のシラバスで確認してください。授業の細部は、教員により異なりますが、下記の〈達成目標〉は、すべての演習に共通したものです。

### 〈達成目標〉

人文総合演習の目的の一つは、学生の表現能力、つまり、自分が表現したいことを正確に言葉で表現する能力です。文献を読むところから始まり、課題についてレポートにまとめる作業、それについてプレゼンテーションするなど、読み、書き、話すことを通して、自分の考えを周りにできるだけ正確に伝えることができるようになることが目標です。

もう一つの目的は、学生自身が、課題発見、課題設定をできるようになることです。最初は難しいので、教員が課題設定あるいは課題発見の実践的な例を見せてくれます。次に学生が、教員の指導の下に、課題の設定をし、それに関する文献の収集、課題についての批判的検討、次に課題についての自分の意見をまとめて発表し、そこで出た意見を踏まえて、最後にレポート作成を試みることになります。最終的には、このような手順を学生が一人でできるようになることが目標です。

(平成13年度以前に入学した学生が履修した場合は、教養科目の総合科目群でその他となります。)

資料4 人文学部推薦図書リスト

人文学部生には読んでおいてもらいたい30冊

書名	編著者など	出版情報
創世記	関根正雄訳	岩波文庫
神曲	ダンテ、平川祐弘訳	河出書房新社
歴史(上・中・下)	ヘロドトス、松平千秋訳	岩波文庫
方法序説	R・デカルト、谷川多佳子訳	岩波文庫
プロテスタント主義の倫理と資本主義の精神	M・ウェーバー、大塚久雄訳	岩波文庫
キケロ ―ヨーロッパの知的伝統―	高田康成	岩波新書
ソシュールを読む	丸山圭三郎	岩波書店
哲学ってどんなこと? ―とても短い哲学入門―	トマス・ネーゲル、岡本裕一朗・若松良樹訳	昭和堂
裸のサル―動物学的人間像	デズモンド・モリス、日高敏隆訳	角川文庫
精神分析入門(上・下)	G・フロイト、高橋義孝・下坂幸三訳	新潮文庫
「日本」とは何か	網野善彦	講談社
日本文学史	小西甚一	講談社学術文庫
古典を訳す	木下順二	福音館日曜日文庫
発見の興奮 言語学との出会い	中島平三	大修館書店
言葉と出会う本	笠原芳光	法蔵館
日本の近代思想	鹿野政直	岩波新書
アリアンの歌	ニム・ウェールズ、キム・サン、松平い子訳	岩波文庫
新唐詩選	吉川幸二郎・三好達治	岩波新書
アメリカとアメリカ人	ジョン・スタインベック、大前正臣	平凡社ライブラリー
生活の貧しさと心の貧しさ	大塚久雄	みすず書房
地球環境問題入門―地球は泣いています	飯井基彦	ナカニシヤ出版
フィールドワーク―書を持って街へ出よう	佐藤郁哉	新曜社
知的複眼思考法	荻谷剛彦	講談社
戦争論	多木浩二	岩波新書
モードの迷宮	鷲田清一	ちくま学芸文庫
かくれた次元	エドワード・ホール、日高敏隆・佐藤信行訳	みすず書房
第三の波	A・トフラー、徳岡孝夫訳	中公文庫
夜と霧(新版)	ヴィクトール・フランクル、池田香代子訳	みすず書房
アリス狩り	高山宏	青土社
1984年	G・オーウェル、新庄哲夫訳	ハヤカワ文庫

さらに履修コースなどがお薦めする本

書名	編著者など	出版情報	推薦元
メノン	プラトン、藤沢令夫訳	岩波文庫	人間学
ニコマコス倫理学(上・下)	アリストテレス、高田三郎訳	岩波文庫	人間学
ソロモンの指輪―動物行動学入門	コンラート・ローレンツ、日高敏隆訳	ハヤカワ文庫	行動基礎論
わたしの生涯	ヘレン・ケラー、岩橋武夫訳	角川文庫	行動基礎論
エスノグラフィ―ガイドブック―現代世界を複眼でみる	松田素二・川田牧人編	嵯峨野書院	社会行動論
自殺論	E・デュルケム、宮島喬訳	中公文庫	社会行動論
シカゴ学派の社会学	中野正大・宝月誠編	世界思想社	社会行動論
地域学のすすめ 考古学からの提言	森浩一	岩波新書	日本文化(歴史系)
日本奥地紀行	イザベラ・バード、高梨健吉訳	平凡社ライブラリー	日本文化(歴史系)
登山の誕生 人はなぜ山に登るようになったのか	小泉武栄	中公新書	日本文化(歴史系)
源氏物語(1・2・3・4・5)	円地文子訳	新潮文庫	日本文化(言語系)
二重言語国家 日本	石川九楊	NHKブックス	日本文化(言語系)
平家物語	石母田正	岩波新書	日本文化(言語系)
風雅の虎の巻	橋本治	ちくま文庫	日本文化(言語系)
一冊でわかる 文学理論	ジョナサン・カラー、荒木映子、富山太佳夫訳	岩波書店	英米文化
理科系の作文技術	木下是雄	中公新書	英米文化
教授のオペラグラス―ニッポンと西洋―	篠沢秀夫	集英社文庫	ヨーロッパ文化
考えるヒント(1・2・3)	小林秀雄	文春文庫	ヨーロッパ文化
千字文	小川環樹・木田章義注解	岩波文庫	アジア文化
古代東アジア世界と日本	西嶋定生・李成市編	岩波現代文庫	アジア文化
阿Q正伝・狂人日記	魯迅、竹内好訳	岩波文庫	アジア文化
一冊でわかる 歴史	J・H・アーノルド、新広記訳	岩波書店	比較社会文化
まなざしのレッスン	三浦篤	東京大学出版会	比較社会文化
図解雑学 文字コード	加藤弘一	ナツメ社	情報メディア論
淀川長治映画塾	淀川長治	講談社文庫	文化コミュニケーション
教養としての〈まんが・アニメ〉	大塚英志	講談社現代新書	文化コミュニケーション
かもめ・ワーニャ伯父さん	チェーホフ、神西清訳	新潮文庫	ロシア文化関連
罪と罰(上・中・下)	ドストエフスキー、江川卓訳	岩波文庫	ロシア文化関連
新しい文学のために	大江健三郎	岩波新書	ロシア文化関連
ロシア・アヴァンギャルド	亀山郁夫	岩波新書	ロシア文化関連
ソフィーの世界―哲学者からの不思議な手紙	ヨースタイン・ゴルデル、池田香代子訳	NHK出版	フランス文化関連
ことばと文化	鈴木孝夫	岩波新書	フランス文化関連
フェティシズムと快楽	丸山圭三郎	紀伊国屋書店	フランス文化関連
隠された十字架	梅原猛	新潮文庫	フランス文化関連

新潟大学人文学部授業改善アンケート  
「人文教養演習」について

新潟大学人文学部

新潟大学人文学部では、学生諸君が日本語による自己表現能力を伸ばしていくことができるよう、様々な取り組みをしています。より一層このような能力の教育に資するよう授業改善をすすめていくための材料としたいので、「人文教養演習」についてのアンケートに協力をお願いします。このアンケートは、あくまでも授業改善のために用いるものです。諸君の成績評価には一切関係ありません。1～7の項目については、～のいずれかにはっきりと印を付けてください。8についてはこの用紙の裏面に記入し、提出してください。

1 あなたは「人文教養演習」で、何回レポートを提出しましたか。

 0     1回     2回     3回     4回以上

2 「人文教養演習」で提出したレポートは返却されましたか。

1	レポートを提出したことがないので、返却されたことはない。
2	レポートを提出したことがあるが、返却されたことはない。
3	1度レポートを提出したことがあり、返却された。
4	複数回レポートを提出したことがあるが、返却されないものもあった。
5	複数回レポートを提出したことがあり、すべて返却された。

3 返却されたレポートは、添削がなされていたり、コメントが付されていたりしましたか。

1	レポートを提出したことがないので、添削やコメントをもらったことはない。
2	レポートを提出したことがあるが、添削やコメントはなかった。
3	1度レポートを提出したことがあり、添削ないしコメントが付されていた。
4	複数回レポートを提出したことがあるが、添削やコメントがないものもあった。
5	複数回レポートを提出したことがあり、常に添削ないしコメントがあった。

4 あなたは「人文教養演習」で、何回発言ないし発表しましたか。

 0     1回     2回     3回     4回以上

5 あなたの発言ないし発表について、担当教官はどの程度指導しましたか。

1	発言・発表をしたことがあるが、指導や意見はなかった。
2	発言・発表をしたことがないので、指導してもらったり意見を言われたことはない。
3	1度発言ないし発表をしたことがあり、指導ないし意見をもらった。
4	複数回発言・発表をしたことがあるが、指導や意見がないときもあった。
5	複数回発言・発表をしたことがあり、常に指導や意見をもらった。

6 あなたの発言ないし発表について、他の学生はどの程度意見を示しましたか。

1	発言・発表をしたことがないので、意見を言われたりしたことはない。
2	発言・発表をしたことがあるが、意見はなかった。
3	1度発言ないし発表をしたことがあり、意見をもらった。
4	複数回発言・発表をしたことがあるが、意見がないときもあった。
5	複数回発言・発表をしたことがあり、常に意見をもらった。

7 あなたにとって「人文教養演習」は、日本語による自己表現能力を伸ばす上で有益でしたか。

1	まったく有益ではなかった。
2	あまり有益ではなかった。
3	どちらとも言えない。
4	多少有益だった。
5	とても有益だった。

8 「人文教養演習」について、自由に意見や感想を書いてください。

.....

.....

.....

.....

ご協力ありがとうございました。

## 資料6 今後の課題

### (1) 初年次教育の今後の展望

- カリキュラム改革後1年目であるため、  
〈各科目がそれぞれ意図した個別機能を果たしているか否か〉、また、  
〈各科目が他の科目と有機的に関係機能を果たしているか否か〉は、  
これから検証されていくことになる。
- 学生、教員双方へのアンケート等を用い、継続的に検証作業を遂行していきたい。

### (2) 大学学習法の今後の課題 ※現段階（新カリキュラム実施6ヶ月目）での印象

- 学校に十分に主旨が伝わっていない場合がある。
- 学生自身がレポートなどの返却や添削を求めている場合がある。
- 推薦図書リストについて具体的に共有される使用方法を検討中。など